

「教育のつどい2019」アピール

憲法いかし、子どものいのちと人権を守る教育と社会をつくろう

「教育のつどい2019」は、8月16日からの3日間滋賀県各地で開催され、開会全体集会と7つの教育フォーラム・31の分科会に、のべ約5000人の父母・保護者、市民、高校生、大学生、教職員の参加を得て大きく成功しました。全国各地から参加されたみなさん、「つどい」成功のためにご奮闘いただいた要員や現地実行委員会のみなさん、開会全体集会会場となった栗東芸術文化会館さきらや各フォーラム・分科会会場に関わるみなさんをはじめとする、すべての関係者の方々のご協力・ご尽力に心から感謝と敬意を表します。

子どものいのちと人権、個人の尊厳を守ること

社会全体に「生きづらさ」が広がり、虐待やいじめ自死など痛ましい事件が相次ぐ中、「教育のつどい2019」では、憲法と子どもの権利条約をいかし、子どものいのちと人権・個人の尊厳を守る教育と社会をどうつくっていくのかが熱く議論されました。安心して過ごせる居場所であるべき学校でも、国や財界に役立つ「人材」づくりをすすめ、「キッチンとチャンと」と子どもを縛り教職員の自由を奪い統制する動きが強まっています。それに抗して、子どもたちの実態から出発した全国のとりのくみを持ち寄り、保護者、市民、高校生、大学生、教職員がいっしょに教育を語り合いました。

“深呼吸”～子どもと教育を語り合うこと

障害者福祉を切り開いた滋賀の地での子どもたちの困難に向き合うとりのくみが、高校生の「書道機動展示」や演劇で見事に表現されました。「子どもの命を守ること～子どもの人権・人間の尊厳～」と題して行われたシンポジウムは、子どもの権利条約の観点から、「豊かな子ども期」を保障するために、複眼的に子ども理解をすすめることや、子どもの意見を受け止める教職員や保護者の「セルフヘルプグループ」を持つことの重要性等が語り合われました。

改訂学習指導要領が押しつけられ、「Society5.0に向けた人材育成」がすすめられようとしています。その中でも、子どもに寄り添った多くのレポートをもとに、「スタンダード」の息苦しさの中で生活する一人ひとりの子どもの声や行動をまっすぐに受け止め、その背景を共有し寄り添う実践が様々に語り交流されました。

同時に、教職員が人間らしく働ける環境をつくることは、子どもたちの豊かな成長を保障することにつながり、「せんせい ふやそう」の圧倒的世論をつくりだすことが必要であることが話し合われました。保護者・地域・教職員がともに創り出す運動と多彩な学びの中で“深呼吸”し、そして目の前の子どもを語り合うことで元気になる「教育のつどい」の大きな魅力を改めて確認しました。

平和を守り真実をつらぬく教育と社会を

安倍政権は憲法9条を変えて「戦争する国」づくりをすすめ、民主主義を壊そうとすることに執念をもやしていますが、多くの国民の世論と運動によってその改憲スケジュールどおりにさせていません。私たちの「教え子を再び戦場に送らない」の誓いととも、「憲法を守れ」の声が全国に広がっています。一人ひとりが主権者として、私たち自身が声をあげることが求められています。

憲法と子どもの権利条約を守りいかすとりのくみを、子どもの豊かな成長・発達を保障するさまざまな運動や願いと結び、職場や地域から声を上げ、さらに広げていきましょう。